

道徳学習指導案

- 1 日時 平成28年11月18日(金)
- 2 学級 第1学年 1組 男子15名 女子17名 計32名
- 3 主題名 D-19 生命の尊さ
- 4 本時のねらい

葛原朋幸さんが消防活動や防災教育に込める思いを通して、すべての生命はかけがえのない存在であることに気づき、自他の生命をより大切にしようとする心情を育てる。

- 5 資料名 「命を本気で守る」(自作資料)
- 6 主題設定の理由

○ 主題観・価値観

本主題は、生命の尊さに気づき自らの命の大切さを深く自覚するとともに、他の生命も尊重する態度を身に付けさせていくことをねらいとしている。

生命はかけがえのない大切なものである。しかし、近年では自然や人間との関わりの希薄さから、生命あるものとの接触が少なくなり、これまでの生活で、「命はかけがえのないもの」「命は大切である」という認識はあるものの、深く考える機会を失いつつある。そこで、生きていることの有り難さに深く思いを寄せることから、自己以外のあらゆる生命の尊さへの理解につなげていきたい。そして、生命はかけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならないということを実感し、生命をより大切にしようとする心情を育てていきたいと考えている。

○ 生徒観

本学級の生徒は、小学校の時から地域と協働した片山中学校区総合防災訓練を4回経験している。命を守ることを視点とした学習を継続しており、防災や助け合いに関して意識が高い。小学校の時は助けられる側としての学習を、中学校に入学してからは人を助ける側の学習をしている。本年度も1学期に2回防災に関わっての講演を受け、8月には地域と協働して避難訓練を実施している。11月25日には、5回目となる総合防災訓練を実施予定である。1学期に行った講演の感想では、「どのような備えをしておくことが必要なのかわかった」、「命を守ることが第一だと分かった」、「災害の時に周りの人を助けられるようになりたい」などの言葉が多くあった。

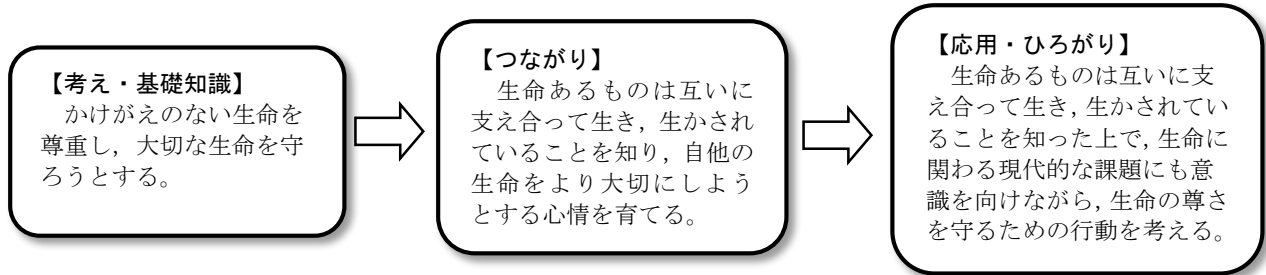
防災学習を通じて命を守る学習をしてきたが、災害等の有事の時に正しい行動がとれるよう、より深い学びを通じて本気で命を守るという意識を高める必要がある。

○ 資料観・指導観

本時は、防災教育に関わりの深い葛原さんの体験談を自作資料として使用することで、生徒を内容に引きつけていく。まず、葛原さんの体験から助ける側の思いを捉えていく。また、災害時に助けを呼ぶという設定で体験的な活動を取り入れることで助けられる側にも焦点を当てていき、土砂災害にあったおばあちゃんの話につなげていく。そして、助ける側・助けられる側の「命を本気で守る」という思いが一致したときにはじめて命が守られることを気づかせ、生命の尊さ、価値について意識を高めていく。振り返りでは命の大切さや命を守ることについて授業から考えたことを書かせ、全体で意見交流し、生徒同士が協働しながらさまざまな考えに出会わせ、学びを深めていく。

そして、実際に生徒のまとめを聞いてもらい、また葛原さんから中学生にメッセージを送ってもらうことで「命」について深く考えていく。

7 「主体的な学び」を意識した指導計画



本校では、防災教育の一環として、第1学年で地域の防災マップを作成している。また、11月を防災月間とし、各教科で防災に関わる授業を行うとともに、総合的な学習の時間において、地域や小学校と協働し、総合防災訓練を行っている。本時の授業も防災教育への取組の一つであり、他学級においても道徳の時間で「生命の尊さ」を取り扱う。

8 学習指導過程

学習活動	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (主な発問 (○), 中心発問 (◎), 予想される生徒の反応 (・))	評価 (評価方法)
導入	1 写真を見て気がついたことを発表する。	◇写真①避難訓練, 写真②葛原さんを提示し、これまでの防災学習を想起させる。 ◇防災学習に関わっていただいている葛原さんの思いから命について考えていくことを伝える。	<div data-bbox="1197 1209 1460 1523" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 小学校のときから防災について学んでいる。これは命を守るためであることに気づかせることで、課題意識をもつことができる。 </div>
展開	2 本時のめあてを確認する。	○命について考えよう。	
	3 葛原さんのインタビュー資料を読んで話し合う。	◇葛原さんのインタビュー資料から、葛原さんが消防の仕事に就こうと考えたきっかけ、現場での話、消防活動や防災教育への思いを確認する。	
開	○葛原さんがこれだけ防災教育を行っているのは、どんな思いがあるからだろうか？ ・自分の命は自分で守ってほしいという思いがあるから。 ・命は絶対になくなってほしくないという思いがあるから。 ・家族やまわりの人が悲しむのはいやだという思いがあるから。 ・火事や災害の現場で、助けることができなかつたとき辛かつたから。		<div data-bbox="1197 1859 1460 1971" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「つながり」を意識した展開の工夫 </div>
	・自分が土砂災害にあった場合、自分の命を守るためにどのような行動をとるか	◇災害にあったときに自分の命を守るためにとる行動を発表させる。	

	<p>考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 土砂災害の現場で埋もれたおばあちゃんの資料を読んで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害の現場で埋もれたおばあちゃんの話を読む。 土砂災害でつぶれた家の写真を提示する。 	
	<p>○おばあさんはどんな思いで木をたたき続けたのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 早く助けてほしい 死にたくない 誰か気づいて 生きたい 家族が悲しむから・・・ <p>(補助発問) ○おばあさんはどうして生きたいと思ったのだろうか？</p>		
		<p>◇助ける側にも、助けられる側にも命に対する強い思いがあることを押さえておく。</p>	
	<p>◎助ける側も助けられる側も、なぜそれほどまでに命を守ろうとするのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 命は大切にしないといけない。 唯一無二のものだからこそ、なくしたくないから。 自分だけのものではないから。 命はかけがえのないものだから。 いつかはなくなってしまうかもしれないけど、助けられるなら助けたいから。 <p>(補助発問) ○どうして命は大切なのか？</p>		
		<p>◇ワークシートに書いた自分の考えを班で交流する。</p>	
終末	<p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>◇授業を通して、命の大切さ、命を守ることについて感じたことを、ワークシートにまとめ、全体で交流する。</p>	<p>資料を基に考えた助ける側と助けられる側にとっての命を意識させて書かせることで、ねらいとする道徳的価値について自分とのかかわりですっきりと考えることができる。</p>
	<p>生徒のまとめ例</p> <p>これまで命は大切だし、命は守らないといけないといわれてきていたけど、あまり真剣に考えていなかった。しかし、命は自分だけのものでもなく、みんなで本気で守っていかないといけないものだと改めて感じた。</p>		
	<p>5 説話を聞く。</p>	<p>◇葛原さんに登場してもらい、生徒のまとめを受けて話をしていただく。</p>	<p>・自分自身が命を本気で守り、大切にしようとしている。(発言・ワークシートへの記述)</p>

『命を本気で守る』

葛原さんの写真

葛原朋幸さん
消防士

写真

写真

写真

写真

助ける側 命の現場で・・・

- ・自分の命は自分で守ってほしい。
- ・命を助けることができなかつたとき辛い。
- ・家族やまわりの人の悲しみ
- ・尊い命は失われてはいけない。

助けられる側 自分の命

写真

- ・死にたくない。
- ・助かりたい。
- ・生きたい。
- ・自分の死で家族を悲しませたくない。
- ・まわりを悲しませてはいけない。
- ・自分の命を投げ出してはいけない。

命

- ・命は大切にしないとけない。
- ・かけがえのないもの。
- ・自分だけのものでない。
- ・唯一無二だからこそ。

土砂災害の写真
を提示する。

避難訓練の写
真を提示する。